

令和7年度 シラバス

教科	音楽	科目		学年・類型	1年 (必修)・選択	単位数(週時数)	1.25
教科書	中学生の音楽1 (教育芸術社) 中学器楽 音楽のおくりもの (教育出版)						
副教材等	音楽の基本ワーク1年 (新学社)						

学習の目標	音楽活動の楽しさを体験することで音楽文化に親しみ、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を育成します。また、音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けます。
学習の方法	歌唱では、楽曲の歌詞や背景を理解し、イメージを持って歌います。器楽では、楽器の構造や奏法を理解し、創意工夫をして演奏します。創作と鑑賞では、社会や生活の中にある音楽に目を向け、音楽の多様性について考えます。
評価の規準	<ol style="list-style-type: none"> 知識・技能 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。 思考・判断・表現 音楽を形作っている要素を知覚し、特質や雰囲気を感じながら意図を持って音楽を味わっている。 主体的に学習に取り組む態度 音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に学習に取り組んでいる。
評価の方法	<p>【各学期の評価】</p> <p>表現の領域(歌唱・器楽)は、実技試験を行います。鑑賞の領域は、定期考査やワークシート、授業への取り組み方等を総合的に評価します。</p> <p>【年間の学習状況の評価】</p> <p>上記の観点を踏まえ、各領域を通して全学期の成績を総合して年間の学習成績とします。</p>

	単元	主な学習内容
1 学 期	歌唱 ・校歌 ・ウィール ファインド ザ ウエイ 鑑賞 ・春 第1楽章 ・魔王	<ul style="list-style-type: none"> 歌詞の内容を生かして表現を工夫するとともに、基礎的な歌唱技能を身に付けます。 季節や情景、登場人物の心情や場面を想像し、歌唱表現の特徴や伴奏の効果を聴いて理解します。 声やピアノ伴奏の変化を聴き取り、物語の進行と曲想の変化との関わりを感じ取って鑑賞します。
2 学 期	歌唱 ・浜辺の歌、赤とんぼ 器楽 ・アルトリコーダー 鑑賞 ・箏曲「六段の調」	<ul style="list-style-type: none"> 言葉と旋律の関わりを理解して歌唱表現できるようにします。 アルトリコーダーの基本的な奏法を理解し、互いの音を聴き合いながら演奏する技能を身に付けます。 箏の特徴的な奏法や表現を聴き取り、日本の伝統音楽の特徴を理解します。
3 学 期	歌唱 ・合唱 創作 ・メロディーを作ろう	<ul style="list-style-type: none"> 曲のしくみや諸記号の効果を生かし、曲の雰囲気をとらえ、表情豊かに合唱し、声が響き合う喜びを味わえるようにします。 音楽で表現したいイメージを持って、音色、強弱、構成を考えながら作曲をします。

令和7年度 シラバス

教科	美術	科目		学年・類型	1年	必修・選択	単位数(週時数)	1.25
教科書	美術1 美術との出会い (日本文教出版)							
副教材等	美術資料 (秀学社)、えひめのクロッキー							

学習の目標	自然の中や身の回りにあるものから良さや美しさを感じ取り、色や形を美しく工夫しながら表現していく姿勢を養う。自分の表現を深めるとともに、友人の表現からも良さを見つけ、認め合う喜びを味わう。また、身近な地域や日本の美術、世界の美術を鑑賞し、その良さや美しさを感じ取り、美術文化に関心を持つ。	
学習の方法	色や形についての基礎的な能力を身に付け、見通しを持って制作する。必要な資料などは自主的に持参するなど、意欲を持って授業に参加すると、よい作品を作ることができる。	
評価の規準	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 表現方法を創意工夫し、創造的に表している。
	思考・判断・表現	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。
	主体的に学習に取り組む態度	美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。
評価の方法	上記の観点を踏まえ、学期ごとに、制作した作品や制作過程、期末考査、宿題、準備物、授業態度から、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度を評価する。3学期の評価は年間を通じての総合評価とする。	

	単元	主な学習内容
1学期	見て、感じて、描く水彩画 自然界や身の回りにある形や色 色の広がり、色の魅力 公共ポスターのデザイン	水彩画では、教科書の中にある絵から鑑賞したことを、目的に応じて描き方や材料を工夫し、表現する活動を行う。 デザインでは、色の知識を学び、美しい色の使い方を身に付ける。また、文字の形や色を工夫して自分の考えを伝える方法を学習する。
2学期	探して、感じて、語り合っ 絵の中をよく見ると 光のハーモニー～印象派～ レタリングの基礎	鑑賞ではルノワールなどの印象派の作品や日本の屏風絵などを見て、日本の美術、西洋の美術についての基礎知識を身に付け、その造形の魅力を味わう。 また鑑賞で得た知識を、制作に生かす。 レタリングでは代表的な明朝体とゴシック体の描き方を学び、それをもとに各自の書体デザインを考える。
3学期	マークの制作 原始の表現に出会う 美のタイムトラベル 立体表現「材料に命を吹き込む」 互いのよさを味わおう	マークの制作では、単純化と強調によるデザインの方法、情報を素早く伝える工夫について学ぶ。工芸について理解を深め、愛好する気持ちを育む。彫刻の制作から、立体で表現するための対象の観察の仕方、材料や道具の扱い方を身に付ける。 鑑賞では、過去から現代にかけての様々な彫刻を鑑賞し、造形に託された思いについて話し合い、表現することの意味や人間の想像力の素晴らしさを学ぶ。

令和7年度 シラバス

教科	音楽	科目	学年・類型	2年	必修・選択	単位数(週時数)	1
教科書	中学生の音楽2・3上(教育芸術社) 中学器楽 音楽のおくりもの(教育出版)						
副教材等	音楽の基本ワーク2・3年上(新学社)						

学習の目標	音楽活動の楽しさを体験することで音楽文化に親しみ、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を育成します。また、音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けます。
学習の方法	歌唱では、楽曲の歌詞や背景を理解し、イメージを持って歌います。器楽では、楽器の構造や奏法を理解し、創意工夫をして演奏します。創作と鑑賞では、社会や生活の中にある音楽に目を向け、音楽の多様性について考えます。
評価の規準	<ol style="list-style-type: none"> 知識・技能 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。 思考・判断・表現 音楽を形作っている要素を知覚し、特質や雰囲気を感じ取りながら意図を持って音楽を味わっている。 主体的に学習に取り組む態度 音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に学習に取り組んでいる。
評価の方法	<p>【各学期の評価】</p> <p>表現の領域(歌唱・器楽)は、実技試験を行います。鑑賞の領域は、定期考査やワークシート、授業への取り組み方等を総合的に評価します。</p> <p>【年間の学習状況の評価】</p> <p>上記の観点を踏まえ、各領域を通して全学期の成績を総合して年間の学習成績とします。</p>

	単元	主な学習内容
1 学 期	鑑賞 ・フーガ ト短調 ・アイーダ 創作 ・音のスケッチ	<ul style="list-style-type: none"> 音楽の諸要素・変化と関わらせて聴き取り、多彩な表現を味わいます。 イメージを持って音楽を感じ取るとともに、オーケストラの多彩な響きや表現を味わい鑑賞します。 動機をもとに構成を工夫して、旋律を作ります。
2 学 期	鑑賞 ・交響曲第5番 ハ短調 ・勸進帳 歌唱 ・夏の思い出 器楽 ・アルトリコーダー	<ul style="list-style-type: none"> オーケストラの音色や響き、リズムの動機を聴き取り、音楽の構成の仕方や形式を理解して鑑賞します。 様々な音楽文化や日本の伝統文化に触れるとともに、理解を深めます。 アルトリコーダーの運指について理解し、基礎的な技能を身に付けて表現できるようにします。
3 学 期	歌唱 ・合唱 器楽 ・津軽三味線	<ul style="list-style-type: none"> 曲の仕組みや諸記号の効果を生かし、曲の雰囲気をとらえ表情豊かに合唱します。 津軽三味線の基礎的な奏法を身に付けて、音楽の特徴を感じ取り、味わって表現します。

令和7年度 シラバス

教科	美術	科目		学年・類型	2年	(必修)・選択	単位数(週時数)	1
教科書	美術2・3上 学びの実感と広がり			美術2・3下 学びの探求と未来				
副教材等	美術資料(秀学社)							

学習の目標	対象を深く見詰め、考えた主題を基に形や色彩の効果を生かした自分らしい表現能力を伸ばします。身近な自然の造形、日本や世界の美術についての理解や見方を深め、心豊かに生きることに関心を持つ意欲と態度を育成します。	
学習の方法	自画像制作を通じて、素直に自分の顔や内面を見詰め、思うように描画できなくても何度もやり直す努力が大切です。技法や用具の特性を組み合わせ、計画的に制作しましょう。アイデアを形にするために必要な資料などは自主的に持参し、主題に合った作品構成を練り、心豊かな表現方法を工夫しましょう。	
評価の基準	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 表現方法を創意工夫し、創造的に表している。
	思考・判断・表現	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。
	主体的に学習に取り組む態度	美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。
評価の方法	提出作品を中心に制作過程、期末考査、各提出物、忘れ物、授業態度など総合的に判断した評価とします。3学期の評価は年間を通じての総合評価となります。	

	単元	主な学習内容
1学期	鑑賞(ゴッホとピカソの生涯) 表現・絵画(自画像)	<p>自画像に取り組む前にゴッホとピカソの作品や人生を鑑賞し、自分の作品に生かす。</p> <p>単なる写生でなく、外見・内面と自己を深く見詰め、光と陰を意識しながら着彩する。透明描法・不透明描法の理解。四切水彩紙にアクリル画を制作する。</p>
2学期	表現・デザイン(モダンテクニック) 鑑賞(日本の文化財)	1学期に制作した自画像を中心素材とし、表現したいイメージを持ちながら、意図に合う新たな表現方法を工夫し、創造的に取り組む。奈良・京都の建造物・仏像を中心に日本美術文化の特性や良さを鑑賞する。
3学期	表現・デザイン・工芸(針金彫刻) 表現・絵画(水墨画)	<p>モチーフとなる動物の骨格や筋肉を学び、針金を使って動物の立体を制作する。立体加工の楽しさを学び、表現の幅を広げる。</p> <p>水墨画技法を学び、墨の濃淡や筆使いを工夫しながら、身近なものを和紙に写生し、篆刻を押印して仕上げる。</p>

令和7年度 シラバス

教科	音楽	科目		学年・類型	3年	必修・選択	単位数(週時数)	1
教科書	中学生の音楽2・3下(教育芸術社) 中学器楽 音楽のおくりもの(教育出版)							
副教材等	音楽の基本ワーク2・3年下(新学社)							

学習の目標	<ul style="list-style-type: none"> 音楽活動の楽しさを体験することを通して、生活を明るく心豊かなものにする態度を身に付けます。 音楽表現の美しさを感じ取り、基礎的な表現技能、創造的に表現する能力を身に付けます。 多様な音楽に興味、関心を持ち、幅広く鑑賞する能力を身に付けます。
学習の方法	<ul style="list-style-type: none"> 様々な音楽活動により、自己を知り、自己表現が出来るように意欲的に活動しましょう。 歌詞の内容を理解し、イメージを持ち、楽器としての身体を使って楽しく歌い合うことが大切です。 鑑賞においては、いろいろな作品を理解し、音楽の良さや美しさを感じ取って聴きましょう。
評価の規準	<ol style="list-style-type: none"> 知識・技能 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。 思考・判断・表現 音楽を形作っている要素を知覚し、特質や雰囲気を感じ取りながら意図を持って音楽を味わっている。 主体的に学習に取り組む態度 音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に学習に取り組んでいる。
評価の方法	<p><各学期の評価> 実技試験(歌唱・器楽・・・創意工夫・技能)及び定期考査(鑑賞曲等の解釈理解)その他授業中の取り組み方(関心・意欲・態度)で総合的に判断して行います。</p> <p><年間の評価> 上記の観点を踏まえ、各領域を通して全学期の成績を総合して年間の学習成績とします。</p>

	題材	主な学習内容
1学期	歌唱 ・花 ・花の街 ・帰れソレントへ 鑑賞 ・ブルタバ 器楽 ・アルトリコーダーの世界	<ul style="list-style-type: none"> 歌詞の内容と曲の背景を知り、表現を工夫して歌います。 世界や日本の歌声の魅力を、発声の仕方や表現の特徴、文化や風土と関わらせて知り、表現を工夫します。 楽曲の背景や作曲者について知り、曲の魅力を味わいます。 アルトリコーダーの運指について理解し、身近な音楽を演奏します。
2学期	歌唱 ・Let It Be ・花は咲く 鑑賞 ・敦盛 創作 ・メロディー作り	<ul style="list-style-type: none"> 世界や日本の歌声の魅力を、発声の仕方や表現の特徴、文化や風土との関わりを知り、表現を工夫します。 歌詞の内容と曲の背景を知り、表現を工夫して歌います。 日本の伝統芸能について知り、音色や響きの美しさを味わいます。 曲想と音楽の構造の関わりについて考え、イメージに合うメロディーを作ります。
3学期	歌唱 ・合唱 鑑賞 ・ボレロ	<ul style="list-style-type: none"> 歌詞の内容を理解して情景を思い浮かべ、響き合う歌う喜びを味わいながら歌います。 曲想と音楽の構造の関わりについて知り、曲の魅力を味わいます。

令和7年度 シラバス

教科	美術	科目		学年・類型	3年 (必修)・選択	単位数(週時数)	1
教科書	美術2・3上 学びの深まり			美術2・3下 美の探求			
副教材等	美術 表現と鑑賞(開隆堂)						

学習の目標	<p>自ら進んで制作や鑑賞に取り組み、心豊かな生活を創造していく態度を高める。</p> <p>対象を深く見詰め、感じ取る力や独創的、総合的な見方や考え方を身に付ける。</p> <p>日本を始め諸外国の美術作品や文化遺産について理解を深め、心豊かに生きることと美術との関わりに関心を持ち、よさや美しさを味わう鑑賞の能力を高める。</p>	
学習の方法	<p>社会の出来事や身近な環境に対し、自分の考えを持ち、表現や鑑賞を通して主体的に関わる。思うようにできなくてもやり直す努力が大切である。自分の考えや発想を効果的に表すための材料や表現方法の工夫を積極的に行い、独創的な作品を制作すること。</p> <p>必要な資料などは自主的に持参するなど、意欲を持って授業に参加すると、よい作品を作ることができる。</p>	
評価の規準	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。 表現方法を創意工夫し、創造的に表している。
	思考・判断・表現	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。
	主体的に学習に取り組む態度	美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。
評価の方法	上記の観点を踏まえ、学期ごとに、作品や制作過程、期末考査、宿題、準備物、授業態度等を総合的に判断して評価を行う。3学期の評価は年間を通じての総合評価とする。	

	単元	主な学習内容
1学期	1版多色木版 美しい文字の基礎 立体感のある絵画 メッセージを表す(ポスター)	<p>思い出の風景に自分の姿を入れ、風景画と人物の両方の描き方を学ぶ。</p> <p>多色の木版を制作することで、版画独特の制作方法を学び、表現の幅を広げる。</p> <p>視覚伝達のデザインで、レタリングや構成など学んだことを、ポスター制作に生かす。</p>
2学期	パッケージデザイン 学校のモニュメントを考えよう 空間の演出、感動の共有 街の中に息づくアート	<p>日常の生活の中にあるデザインに着目し、対象や目的に合わせた訴求力のあるデザインを工夫することで内容を整理し、色や形を使って効果的に伝える方法を学ぶ。</p> <p>学校での生活を快適にするためのデザインを発想し、提案する。</p>
3学期	世界を魅了したきらめき(鑑賞) 光の効果を生かして(石の絵の制作) 日本の美を味わう(相互鑑賞) アジアの新しい風(鑑賞) あふれ出る躍動感(クロッキー)	<p>日本の絵画や工芸品に多く用いられた光の効果について学び、それらを生かした構成や配色を工夫して作品を制作する。</p> <p>現代アジアの美術を味わい、その特徴や文化的背景を理解します。日本の美術の流れから、風土や伝統の上に形成されてきた各時代の特色や魅力を味わう。</p> <p>動いている対象の特徴を瞬時にとらえ、躍動感を表現するクロッキーに取り組む。</p>

令和7年度 シラバス

教科	芸術	科目	音楽 I	学年・類型	4年 必修・ 選択	単位数(週時数)	2
教科書	ON! 1 (音楽之友社)						
副教材等							

学習の目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽の良さや美しさを感じるとともに、友人と心を通わせ音楽活動する楽しさを体験します。音楽と生活や社会とのつながりを学び、生涯にわたって音楽を愛好する心を育てます。
学習の方法	歌、楽器演奏、創作、鑑賞などの活動を行います。学んだことを生かし、考え、感じたことを意欲的に表現しましょう。
評価の規準	<ol style="list-style-type: none"> 1 知識・技能 曲想と音楽の構造や歌詞、楽曲の背景について理解し、それらを生かして歌唱や演奏、創作をする技能が身に付いている。 2 思考・判断・表現 知識・技能を生かしながら、イメージを持って創意工夫している。 3 主体的に学習に取り組む態度 主体的・協働的に歌唱や器楽、鑑賞の学習に取り組んでいる。
評価の方法	<p><各学期の評価> 上記の観点を踏まえ、実技試験（歌唱・器楽・創作）及びワークシートの記述、その他、授業への取り組み方から総合的に評価を行います。</p> <p><年間の評価> 各学期の成績を総合して年間の学習成績とします。</p>

	題材	主な学習内容
1 学期	歌唱 ・翼をください ・'O sole mio ・Caro mio ben ・野ばら 創作 ・メロディー作り	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な歌唱技能を身に付けます。 ・外国の歌を歌うことで発音、発声の仕方の違いなどを理解し表現します。 ・これまでに学んだ楽譜の基礎知識を生かし、創作をします。
2 学期	歌唱 ・民衆の歌 ・小さな空 ・この道 器楽 ・クラシックギター	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な歌唱技能を身に付けます。 ・歌詞の内容や、曲の構成を生かした表現を考えて合唱します。 ・ギターの基本的奏法を身に付けます。 ・主体的に発表の準備をすることで、音楽活動の楽しさを味わい、創造的に表現します。
3 学期	鑑賞 ・キャッツ ・カルメン 歌唱 ・ぜんぶ	<ul style="list-style-type: none"> ・楽曲の背景や音楽を形づくっている要素について知り多様な音楽の良さや美しさを味わって聴きます。 ・楽曲の背景や音楽を形づくっている要素について知り多様な音楽の良さや美しさを味わって聴きます。 ・詩の内容を理解し、イメージをもって表現を工夫して歌います。 ・パートの役割を理解し、音の重なりを楽しみながら歌います。

令和7年度 シラバス

教科	芸術	科目	書道 I	学年・類型	4年	(必修)・選択	単位数(週時数)	2
教科書	書 I							
副教材等								

学習の目標	書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。
学習の方法	臨書活動を通して、幅広い書の表現能力を高める。書道や文字文化に対する知識を身に付ける。
評価の規準	<ol style="list-style-type: none"> 知識・技能 <ul style="list-style-type: none"> 書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。 書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。 思考・判断・表現 <ul style="list-style-type: none"> 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりしている。 主体的に学習に取り組む態度 <ul style="list-style-type: none"> 主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。
評価の方法	<p>〈各学期の評価〉 上記の観点を踏まえ、実技及びワークシートの記述、その他授業への取り組み方から総合的に評価を行います。</p> <p>〈年間の評価〉 各学期の成績を総合して年間の学習成績とします。</p>

	単元	主な学習内容
1 学期	漢字の書【楷書】 漢字の書【行書】	<ul style="list-style-type: none"> 古典の臨書活動を通して、観察力や表現技能を身に付けます。 楷書と行書の違いについて理解し、表現する力を身に付けます。
2 学期	漢字の書【行書】 漢字の書【篆書・隸書・草書】 仮名の書	<ul style="list-style-type: none"> 書道史に基づき文字の成立について理解し、表現する能力を身に付けます。 仮名の成立について学び、日本独自の表現方法について理解し、表現する力を身に付けます。
3 学期	漢字仮名交じりの書 書的美を求めて	<ul style="list-style-type: none"> 漢字仮名交じりの書について学び、日常的に使用する言語と書きぶりの関係について理解を深めます。 学習した古典を深める作業を通して、表現の能力を高めます。

令和7年度 シラバス

教科	芸術	科目	美術 I	学年・類型	4年	必修・ 選択	単位数(週時数)	2
教科書	高校生の美術 1 (日本文教出版)							
副教材等	新 美術 表現と鑑賞 (開隆堂)							

学習の目標	<p>絵画やデザイン、映像メディアや、鑑賞など、美術の幅広い活動を通して自然や社会を見つめ、自分自身の考えを深めて友人と考えを共有しながら、心豊かに生きることと人間の造形活動のつながりを学び、美術を愛好する心情を育む。</p>	
学習の方法	<p>前期で学んだ色や形についての基礎的な能力を生かし、絵画、彫刻、デザインや映像メディア表現など幅広い表現活動に取り組む。また、様々な時代や地域の美術作品を鑑賞し、多様な表現から作者の意図を読み取り、自分なりの見方や考え方を深めていく。</p>	
評価の基準	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。
	思考・判断・表現	<p>造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。</p>
	主体的に学習に取り組む態度	<p>美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。</p>
評価の方法	<p>上記の観点を踏まえ、学期ごとに、授業に対する取り組みや作品、出席状況などを総合的に判断して評価を行う。3学期の評価は年間を通じての総合評価とする。</p>	

	単元	主な学習内容
1 学 期	美術とは何か 水彩画による絵画制作 デザイン演習 人権ポスター	<p>透視図法や水彩画の基礎を学び、それを生かして静物の細密画を描く。</p> <p>デザイン演習では色彩や構成に関する基礎的な技能を身に付け、学んだ内容を人権ポスター制作につなげる。</p>
2 学 期	トーンセパレーション 立体作品の魅力	<p>写真から立体感のある絵を制作する技法を学び、図案化して作品に仕上げる。</p> <p>立体では、対象を、素材を生かした構造物に置き換え、制作を通して彫刻の基礎を学ぶ。</p>
3 学 期	ステンシル版画 身近なものを描く ・構図、バランス ・固有色に応じた濃淡表現 ・質感の表現	<p>ステンシルの技法を学び、シルクスクリーンとは違った表現方法を追求する。</p> <p>身近なものの特徴や美しさなどを基に、形や色彩、質感などの効果を考え、構想を練ったり鑑賞したりするとともに全体のイメージを捉え線の強弱や絵の具などの特性を生かして表す。</p>

令和7年度 シラバス

教科	芸術	科目	音楽表現	学年・類型	6年 必修・ 選択	単位数(週時数)	4
教科書	改訂 音楽通論 (教育芸術社)						
副教材等							

学習の目標	音楽の創造的な諸活動を通して、音楽体験を重ね、表現者としての感性を磨き、個性豊かな音楽の能力を高めると主に多くの作品に触れ、多様な価値観を理解して自らの豊かな表現活動に生かそうとする態度を育てる。
学習の方法	音楽理論を学習することを通して、幅広い音楽の知識を身に付ける。 歌唱、器楽、鑑賞、創作の技能を伸ばし、表現力を高める
評価の規準	1 知識・技能 創意工夫を生かした音楽表現をするための歌唱、器楽、創作の技能が身に付いている。 2 思考・判断・表現 歌唱や器楽においてどのように表現したいか、意図をもって表現できている。 3 主体的に学習に取り組む態度 音楽に関心を持ち、進路を見据えながら積極的に学習に取り組もうとしている。
評価の方法	<各学期の評価> 上記の観点を踏まえ、演習問題及び、授業中の取組への意欲で総合的に判断して評価を行います。 <年間の評価> 各学期の成績を総合して年間の学習成績とします。

	単元	主な学習内容
1 学 期	音楽理論 ・音程、調判定、楽語 ソルフエージュ ・初見視唱 和声研究1	・楽譜の起源について理解させ、音の長さや高さについて音が変わる様子を感じさせる。また記号について理解し、表現の幅を広げて作曲者の意図する表現を考えさせます。 ・楽器や声の種類を理解し、それぞれに応じた楽曲を表現します。 ・和声課題を通じて、和声進行を学習します。
2 学 期	音楽理論 ・スコアリーディング、音楽史 ソルフエージュ ・聴音 和声研究2	・スコアの仕組みを理解させそれぞれの楽曲分析をさせます。また、様々な音階や和音を理解して、それぞれから生まれる音楽を感受し、表現を考えさせます。 ・作品の歴史的背景に基づいて、音楽史を学び、楽曲に応じた表現方法を探求させます。 ・和声課題を通じて、和声進行を学習します。
3 学 期	音楽理論 ・演習問題 ソルフエージュ ・演習問題 和声研究3	・コードネームを理解して、器楽表現をさせます。 ・各自で楽曲を設定し、表現の追求を行います。 ・合評会を実施し、互いの表現の効果を確認します。

令和7年度 シラバス

教科	芸術	科目	書道表現	学年・類型	6年	必修・ 選択	単位数(週時数)	4
教科書	墨心(教育出版)							
副教材等	書Ⅰ・書道Ⅱ・書道Ⅲ							

学習の目標	書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。
学習の方法	臨書活動や創作を通して、幅広い書の表現能力を高める。書道や文字文化に対する知識を身に付ける。
評価の規準	<ol style="list-style-type: none"> 知識・技能 書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。 書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。 思考・判断・表現 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりしている。 主体的に学習に取り組む態度 主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。 書道に関心を持ち、進路も見据えながら積極的に学習に取り組もうとしている。
評価の方法	<p>〈各学期の評価〉 上記の観点を踏まえ、実技及びワークシートの記述、その他授業への取り組み方から総合的に評価を行います。</p> <p>〈年間の評価〉 各学期の成績を総合して年間の学習成績とします。</p>

	単元	主な学習内容
1 学期	書道史Ⅰ 書道史Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> 書道史に基づき文字の成立について理解し、表現する能力を身に付けます。 仮名の成立について学び、日本独自の表現方法について理解し、表現する力を身に付けます。
2 学期	作品制作Ⅰ 作品制作Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> 古典の臨書活動を通して、観察力や表現技能を身に付けます。 書体や書風の違いについて理解し、表現する力を身に付けます。
3 学期	実用の書	生活の中の書に目を向け、生涯にわたり書を愛好する心情を養います。

令和7年度 シラバス

教科	芸術	科目	美術表現	学年・類型	6年・人文 必修・ 選択	単位数(週時数)	4
教科書	造形基礎 (武蔵野美術大学出版局)						
副教材等							

学習の目標	美術の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を豊かにし、独自の表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、自らの表現活動に生かすことのできる資質・能力を育成する。						
学習の方法	色や形についての基礎的な知識を生かしながら、観察と描写を多面的にとらえ、一般通念から解放して主体的に見ること、描くことを理解していきます。必要な資料などは自主的に持参するなど、探究心を持って授業に参加すると、よい作品を作ることができます。						
評価の基準	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 意図に応じて表現方法を追求し、個性を生かして創造的に表している。 					
	思考・判断・表現	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性を生かして発想し構想を練ったり、自己の価値観を働かせて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。					
	主体的に学習に取り組む態度	主体的に美術の創造的な諸活動に取り組もうとしている。					
評価の方法	上記の観点を踏まえ、学期ごとに、授業に対する取り組みや作品、出席状況などを総合的に判断して評価を行う。3学期の評価は年間を通じての総合評価とする。						

	単元	主な学習内容
1 学 期	造形基礎Ⅰ 手と身体／ドローイング ・「点・線・面」 造形基礎Ⅱ 観察と描写 ・「鉛筆デッサン」 ・「木炭デッサン」 〔課題研究1〕	<ul style="list-style-type: none"> 『ラスコーの洞穴壁画』から、素描（ドローイング）の起源について理解し、線が形へ変化する様子を感じる。 ものを観察することと、描写することについて、表現と伝達という根元に立ち返って考えます。 「鉛筆デッサン」の方法を習得し、対象を把握する要点を理解します。 「木炭デッサン」の方法を理解し、量としての対象の把握について考えます。 各自でモチーフを設定し、表現の追究を行います。
2 学 期	造形基礎Ⅲ 感情と色彩 ・「平面構成」 〔課題研究2〕	<ul style="list-style-type: none"> 色や形がもたらす心的作用を理解させ、表現に結びつける方法を試し、独自の表現を考えます。 「自然界から集めた色」の作例からテーマに合わせて配色計画を作成させ、平面構成をします。 各自でモチーフを設定し、表現の追究を行います。
3 学 期	造形基礎Ⅳ 立体から空間へ ・「立体構成」 〔課題研究3〕	<ul style="list-style-type: none"> 立体や空間をテーマに扱った作品の鑑賞をし、立体を認識して表現する方法を理解して制作に結びつけます。 各自でモチーフを設定し、表現の追究を行います。 合評会を実施し、互いの表現の効果を確認します。